

【基礎的な評価結果】

番号	業務指標	優位性 (指標の 望ましい 方向性)	業務指標値					比較対象(評価基準)					定量的評価										達成率	問題点 (経年比較・他事業者比較)	課題 (計画値との差)			
			H19 <基準>	H21	H22	H23	H24	経年 比較	他事業者(類似団体等)比較	NWR21 計画値	その他の 計画値	基礎的な評価 (偏差値・改善度)					ベンチマーク<参考>											
			全市	全市	全市	全市	全市	改善	平均値	偏差値	50 以上	H30	Aa	Ab	Ba	Bb	D	点数	A (高評価)	B (普通)	C (低評価)							
1001	水源利用率 (%)	対象外	63.7	67.2	66.5	61.7	61.4	64.7				63.8															H24は指標値は前年度と同程度であり、平均値と同水準にある。ある程度、効率的に水源を利用できている。	
1002	水源余裕率 (%)	対象外	36.3	34.1	34.5	47.8	50.3	41.3				29.4															H24は一日最大配水量の減により指標値が上がり、前年度と同様に平均値を上回る水準にある。ある程度、濁水に対する安全性を備えている。	
1003	原水有効利用率 (%)		97.8	96.8	97.6	97.2	97.9	91.1	62.0		96.4						3						100.0			偏差値は非常に高く、取水した水は有効に利用できており、指標値も改善傾向にある。	すでに計画値を達成しており、今後も漏水等のロスを少なく抑えるため、管路の維持管理を十分に行っていくことが重要である。	
1004	自己保有水源率 (%)		30.0	25.5	20.5	13.1	13.1	41.5	41.6		21.7						1						60.5			水源は受水が主であるため、偏差値は低い。	H22以降、浄水場の統廃合などにより指標値が下降傾向であったが、計画の完了に伴いH24は前年度と同値である。危機管理の観点からも、ある程度の自己水源を維持していくことが重要である。	
1005	取水量1m <sup>3</sup> 当たり水源保全投資額 (円/m <sup>3</sup> )	対象外	-	-	-	-	-	0.3																			水源保全のための投資を行っていない。	
1101	原水水質監視度 (項目)		134	134	77	56	56	95.6	41.8								1										H22以降、丸山貯水池の農業検査を行わなくなったため、指標値は悪化傾向にあり、偏差値も低い。	
1102	水質検査箇所密度 (箇所/100km <sup>2</sup> )		16.3	16.3	16.3	16.3	16.3	15.5	50.7								3										偏差値は平均を少し上回っている。	
1103	連続自動水質監視度 (台/(1,000m <sup>3</sup> /日))		0.075	0.076	0.076	0.077	0.078	0.0	58.9								3										偏差値は高く、指標値も改善傾向にある。自動水質監視装置は南部で10台、北部で2台設置しており、連続監視体制は整っている。	
1104	水質基準不適合率 (%)		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0			0.0					3						100.0			すべての水質検査で水質基準に適合している。	今後も水質基準に不適合とならないよう、引き続き水質管理の強化に努め、水質の変化に迅速に対処していく必要がある。	
1105	カド臭から見たおいしい水達成率 (%)		50	70	70	80	80	81.3	49.0								2										H24は指標値は前年度と同値である。指標値は改善傾向にあるが、偏差値は平均を少し下回っている。	
1106	塩素臭から見たおいしい水達成率 (%)		0	0	0	0	0	29.5	40.3								1										指標値は0%で推移しており、偏差値は低い。	
1107	総トリハロメタン濃度水質基準比 (%)		47	53	40	32	43	37.5	47.1								2										H23より河川水を水源とする鯉池浄水場が浄水処理を停止したことにより、指標値は改善傾向となっているが、偏差値は低めとなっている。	
1108	有機物(TOC)濃度水質基準比 (%)		28	43	50	40	37	33.7	47.7								1										H23以降、河川水を水源とする鯉池浄水場が浄水処理を停止したことにより、指標値は年々改善している。偏差値は低めとなっている。	
1109	農薬濃度水質管理目標比 (%)		0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.0	53.0								3										指標値は0%で推移している。	
1110	重金属濃度水質基準比 (%)		2	2	2	2	0	5.3	58.8								3										偏差値は高く、指標値も改善傾向にある。	
1111	無機物質濃度水質基準比 (%)		25	28	22	20	20	16.7	46.6								2										偏差値は低めであるが、指標値は改善傾向にある。	
1112	有機物質濃度水質基準比 (%)		10	0	5	5	0	5.9	58.8								3										偏差値は高く、指標値も改善傾向にある。	
1113	有機塩素化学物質濃度水質基準比 (%)		0	0	0	0	0	0.3	53.0								3										指標値は0%で推移している。	
1114	消毒副生成物濃度水質基準比 (%)		15	21	16	9	14	9.1	42.2								2										H23以降、河川水を水源とする鯉池浄水場が浄水処理を停止したことにより、指標値は改善傾向にあるが、偏差値は低い。	
1115	直結給水率 (%)		* 92.6	* 92.9	* 93.1	* 93.3	* 93.0	86.6	54.6								3										給水装置単位で算出しているため、他事業者との比較は難しい。偏差値は高めであり、指標値も改善傾向にある。	
1116	活性炭投入率 (%)		13.7	19.7	12.3	0.0	0.0	30.1	57.7								3										H23以降、河川水を水源とする鯉池浄水場が浄水処理を停止したことにより、指標値は0となり、改善傾向にある。偏差値は高くなっている。	
1117	鉛製給水管率 (%)		* 48.8	* 46.3	* 43.6	* 39.9	* 38.0	13.2	33.8		21.8	10.0					2						68.9			給水装置単位で算出しているため、他事業者との比較は難しい。偏差値は非常に低いが、鉛製給水管の取替を進めており、指標値は改善傾向にある。	鉛製給水管の解消に向けて、今後も積極的に取替を進めていく必要がある。(参考)達成率 H23:66.8%、H24:68.9%	

【基礎的な評価結果】

番号	業務指標	優位性 (指標の 望ましい 方向性)	業務指標値					比較対象(評価基準)					定量的評価										定性的評価					
			H19 <基準>	H21	H22	H23	H24	経年 比較	他事業体(類似団体等)比較				NWR21 計画値	その他の 計画値	基礎的な評価 (偏差値・改善度)					ベンチマーク<参考>					達成率	問題点 (経年比較・他事業体比較)	課題 (計画値との差)	
			全市	全市	全市	全市	全市		改善	平均値	偏差値	50 以上			H30	Aa	Ab	Ba	Bb	D	点数	A (高評価)	B (普通)	C (低評価)				
2001	給水人口一人当たり貯留飲料水量(L/人)		60	60	60	52	52	161.6	31.4	54											1			94.6	偏差値は非常に低く、指標値も悪化傾向にある。受水している阪神水道企業団の施設を算定基礎に含んでいないことが、指標値に大きく影響している。	給水人口の増加により指標値は悪化していく。災害時等のために、ある程度の余裕が必要である。		
2002	給水人口一人当たり配水量(L/日/人)		337	329	329	322	320	331.0	46.7	334											1			95.9	給水人口は増加しているが配水量が減少しているため、指標値は悪化傾向にある。偏差値も低めとなっている。	給水人口の増加により指標値は悪化してしまつたため、給水人口の伸び以上に水需要が回復する必要がある。		
2003	浄水予備力確保率(%)	対象外	49.8	40.0	53.5	68.7	70.7	29.6		14.6															H22の越水浄水場、H23の鯨池浄水場の浄水処理休止に伴い、1日最大浄水量が減少したため、指標値は増加している。			
2004	配水池貯留能力(日)		0.35	0.36	0.36	0.32	0.32	0.9	27.1	0.32											1			98.8	偏差値が非常に低く、指標値も悪化傾向にある。受水している阪神水道企業団の施設を算定基礎に含んでいないこと及びH23の鯨池浄水場の浄水処理休止が、指標値に大きく影響している。	給水人口の増加に伴い、配水量が増加すると、指標値は悪化していく。災害時等のために、ある程度の余裕が必要である。		
2005	給水制限数(日)		0	0	0	0	0	2.2	51.8												3					給水制限は実施していない。		
2006	普及率(%)		99.97	99.98	99.98	99.98	99.98	98.4	55.7	100.0											3				100.0	普及率は限りなく100%に近い。	未給水人口の解消に向けた取組みが必要である。	
2007	配水管延長密度(km/km <sup>2</sup> )		15.7	15.8	15.9	15.9	16.0	12.0	58.4	15.7											3				100.0	管路網は整備されており、偏差値は高く、指標値も改善傾向にある。	すでに計画値を達成しており、今後は管路の維持管理を十分に行っていくことが重要である。	
2008	水道メータ密度(個/km)		85	89	98	103	108	102.7	51.2												3					偏差値は平均を少し上回っており、指標値も改善傾向にある。		
2101	経年化浄水施設率(%)		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	55.2	0.0											3				100.0	耐用年数に達した施設がないため、指標値は0%で推移しており、偏差値は高い。	浄水場の多くは昭和30年から50年代に整備されたため、浄水場の統廃合に合わせた計画的な整備が必要である。	
2102	経年化設備率(%)		50.0	52.1	37.5	37.5	36.1	48.1	57.0	50.0											3				100.0	H22以降は越水・鯨池両浄水場が休止等により算出対象から外れたため、指標値は改善傾向にあり、偏差値も高くなっている。	法定耐用年数や設置環境を考慮し、浄水場の統廃合や送配水施設の再編成に合わせた計画的な更新が必要である。	
2103	経年化管路率(%)		データなし	8.544	9.6	10.8	11.1	12.4	51.4												2					偏差値は平均を少し上回っているが、指標値は悪化傾向にある。	管路の老朽度や重要度を考慮して、優先度の高い管路から計画的に更新していく必要がある。	
2104	管路の更新率(%)		0.51	0.62	1.11	0.72	1.35	0.8	58.7	0.96											3					100.0	指標値は改善傾向にあり、偏差値は高い。	年度によって増減があるが、管路の老朽度や重要度を考慮して、優先度の高い管路から計画的に更新していく必要がある。
2105	管路の更生率(%)		0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.0	48.5	0.000											1					H17以降は管路更生を実施していないが、他事業体も同様の状況である。管路の更生はあくまで応急的な措置である。		
2106	バルブの更新率(%)		1.02	1.34	1.62	0.96	1.25	1.3	49.5	1.56											2					79.7	指標値は改善傾向にあるが、偏差値は平均を少し下回っている。	年度によって増減があるが、管路の老朽度や重要度を考慮して、優先度の高い管路から計画的に更新していく必要がある。
2107	管路の新設率(%)		0.10	0.23	0.18	0.14	0.02	0.5	36.8	0.09											1				17.3	偏差値は非常に低い、「2006 普及率」、「2007 配水管延長密度」の偏差値が高いことから、新設の必要性が少なくなっているためだと考えられる。	計画値を達成しているが、今後は管路の新設の必要性が少なくなり、維持管理の重要性が増していく。	
2201	水源の水質事故数(件)		0	0	0	0	0	0.8	53.7												3					水道事業者だけで対処できるものではないが、偏差値は高めであり、指標値も改善傾向にある。		
2202	幹線管路の事故割合(件/100km)		1.2	0.0	0.5	1.0	2.5	1.1	43.4												1					偏差値は低く、指標値も悪化傾向にある。事故件数が、H23の2件からH24は5件に増加している。		
2203	事故時配水量率(%)		48.7	34.9	34.8	19.3	19.4	77.8	31.2	10.9											1				100.0	H23の鯨池浄水場の浄水処理休止に伴い、最大の浄水場が同浄水場から丸山浄水場になったため、指標値は悪化しており、偏差値も非常に低くなっている。受水している阪神水道企業団の施設を算定基礎に含んでいないことが指標値に大きく影響している。	すでに計画値を達成しているが、今後は浄水場の統廃合により、指標値は悪化していく。	
2204	事故時給水人口率(%)		17.9	17.6	14.4	1.8	1.7	32.9	61.9	10.4											3				100.0	H23の鯨池浄水場の浄水処理休止に伴い、最大の浄水場が同浄水場から丸山浄水場になったため、指標値は改善しており、偏差値も非常に高くなっている。受水している阪神水道企業団の施設を算定基礎に含んでいないことが指標値に大きく影響している。	浄水場の統廃合により、指標値は改善していく。	
2205	給水拠点密度(箇所/100km <sup>2</sup> )		34.1	34.0	34.0	34.0	34.0	18.3	58.9	38.1											3				89.3	偏差値は高く、指標値も改善傾向にある。緊急避難併付き配水池は南部で7か所、北部で5か所、緊急貯水槽は南部で12か所、北部で1か所整備しており、給水拠点は十分に整備されている。	計画している給水拠点の整備を行うことにより、給水区域ほぼ全域への応急給水が可能となる。	
2206	系統間の原水融通率(%)		19.8	19.8	0.0	0.0	0.0	10.1	45.9	0.0											1					-	鯨池浄水場停止に伴い、原水の融通が可能な系統はなくなったため、H22以降の指標値は0となっている。偏差値も低めとなっている。	
2207	浄水施設耐震率(%)		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	24.2	41.9	53.4											1				0.0	指標値は0%で推移しており、偏差値は低い。	耐震対策の施された浄水施設はないため、浄水場の統廃合に合わせた計画的な耐震化が必要である。	
2208	ポンプ所耐震施設率(%)		6.5	6.5	6.5	11.9	11.2	37.5	41.0	67.7											2				16.6	偏差値は低いが、H23の鯨池浄水場の浄水処理休止に伴い、指標値は改善傾向にある。	耐震対策の施されたポンプ所は一部しかないため、送配水施設の再編成に合わせた計画的な耐震化が必要である。	
2209	配水池耐震施設率(%)		15.9	15.9	15.9	18.1	18.3	45.7	39.7	40.1											2				45.7	偏差値は非常に低いが、H23の鯨池浄水場の浄水処理休止に伴い、指標値は改善傾向にある。	耐震対策の施された配水池は少ないため、送配水施設の再編成に合わせた計画的な耐震化が必要である。	
2210	管路の耐震化率(%)		13.4	14.8	16.0	16.8	18.1	14.4	53.4	24.8	24.8										3				73.2	偏差値は高めであり、指標値も改善傾向にある。	管路の老朽度や耐震性、重要度を考慮して、優先度の高い管路から計画的に耐震化していく必要がある。	
2211	薬品備蓄日数(浄水場平均)(日)	対象外	38.4	47.8	39.1	42.4	48.7	40.4																			指標値は増加傾向にあり、平均値より高い水準にある。	
2212	燃料備蓄日数(浄水場平均)(日)	対象外	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5	0.8																			指標値は平均値を下回っているが、非常用発電設備の整備を進めている。	
2213	給水車保有度(台/1,000人)		0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.0	51.5	0.01											2				84.4	偏差値は平均を少し上回るが、給水人口の増加に伴い、指標値は悪化傾向にある。給水車は南部で3台(1台)、北部で1台保有している。	H23.6.24南三陸町へ給水車1台を寄贈したことにより達成率が100%未満となった。また、給水車を常時使用できるような整備を行う必要がある。	
2214	可搬ボリタンク・ボリバック保有度(個/1,000人)		29.2	28.2	26.9	16.3	16.3	70.2	43.5	27.1											1				60.2	H23に東日本大震災の被災地にボリバックを提供したことに伴い、指標値が大きく減少した。指標値は悪化傾向にあり、偏差値も低くなっている。	災害時等に対応するため、可搬ボリタンク・ボリバックの適切な在庫管理を行う必要がある。	
2215	車載用の給水タンク保有度(m <sup>3</sup> /1,000人)		0.03	0.03	0.03	0.03	0.02	0.1	45.1	0.03											1				84.4	南部では給水車の寄贈、北部ではタンクの廃止により数値が減少している。偏差値は低めであり、給水人口の増加に伴い、指標値も悪化傾向にある。	タンク総容量の減少により達成率が100%未満となった。また、給水タンクを常時使用できるように整備を行う必要がある。	
2216	自家用発電設備容量率(浄水場平均)(%)		64.8	46.9	46.9	46.9	47.6	66.2	46.1	57.8											1				82.3	偏差値は低めだが、自家用発電設備の整備を進めている。	停電等の非常時においても、安定した供給を継続して行うために、自家用発電設備の整備が必要である。	
2217	警報付施設率(%)		49.7	50.3	52.0	52.4	51.8	54.4	49.3	45.7											2				100.0	偏差値は平均を少し下回っているが、指標値は改善傾向にある。また、南部で指標値は高くなっているが、北部では低い。	すでに計画値を達成しているが、水道施設の安全性を確保するため、警備体制とあわせて整備する必要がある。	
2218	給水装置の凍結発生率(件/1,000件)		0.00	0.14	0.59	0.41	0.05	0.4	53.3												2						給水装置の凍結は北部地域で多く発生している。水道事業者の置かれている地理条件に大きく影響される。	

【基礎的な評価結果】

番号	業務指標	優位性 (指標の 望ましい 方向性)	業務指標値					比較対象(評価基準)					定量的評価										達成率	定性的評価 (経年比較・他事業体比較)	課題 (計画値との差)					
			H19 <基準>	H21	H22	H23	H24	経年 比較	他事業体(類似団体等)比較	NWR21 計画値	その他の 計画値	基礎的な評価 (偏差値・改善度)					ベンチマーク<参考>													
			全市	全市	全市	全市	全市	改善	平均値	偏差値	50 以上	H30	Aa	Ab	Ba	Bb	D	点数	A (高評価)	B (普通)	C (低評価)									
3001	営業収支比率 (%)		110.6	107.0	104.5	101.2	99.4		116.9	34.3							1											偏差値は非常に低く、指標値も悪化傾向にある。		
3002	経常収支比率 (%)		105.3	103.3	102.2	98.8	98.8		109.5	34.3							1											偏差値は非常に低く、指標値も悪化傾向にあり、H23以降は100%未満となっている。		
3003	総収支比率 (%)		105.2	103.2	94.2	99.2	98.2		109.3	33.4							1											偏差値は非常に低く、指標値も悪化傾向にあり、H22以降は100%未満となっている。		
3004	累積欠損金比率 (%)		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		1.8	52.1							3							100.0				累積欠損金は生じていない。	今後も累積欠損金が生じないよう、健全経営の維持に努めていく必要がある。	
3005	繰入金比率(収益的収支分) (%)		0.8	1.0	1.2	1.2	1.0		1.1	50.4							2											偏差値は平均を少し上回っているが、指標値は悪化傾向にある。		
3006	繰入金比率(資本的収入分) (%)		1.7	4.2	1.6	3.8	1.5		13.1	57.5							3											偏差値は高く、指標値も改善傾向にある。		
3007	職員一人当たり給与 (千円/人)		47,677	49,940	53,052	52,981	53,384		69,622.5	43.7							2											偏差値は低い、職員数の削減に伴い、改善傾向にある。		
3008	給与収益に対する職員給与費の割合 (%)		24.3	24.0	22.2	21.1	19.0		15.1	40.1							2											偏差値は低い、職員数の削減に伴い、改善傾向にある。		
3009	給与収益に対する企業債利息の割合 (%)		8.4	6.7	6.4	5.6	5.4		7.8	55.5							3											企業債の償還が進んでおり、偏差値は高く、指標値も改善傾向にある。		
3010	給与収益に対する減価償却費の割合 (%)		21.5	22.0	22.1	22.4	22.4		32.4	61.0							2											偏差値は非常に高い、給与収益の減少に伴い、指標値は悪化傾向にある。		
3011	給与収益に対する企業債償還金の割合 (%)		14.3	13.7	13.1	14.5	13.2		23.0	57.8							3											企業債の償還が進んでおり、偏差値は高く、指標値も改善傾向にある。		
3012	給与収益に対する企業債残高の割合 (%)		217.8	211.6	214.6	215.9	228.5		306.4	54.0							2											偏差値は高めであるが、給与収益の減少に伴い、指標値は悪化傾向にある。		
3013	料金回収率 (%)		97.6	96.0	94.1	92.1	91.0		102.9	34.8							1							96.8				100%を下回っており、偏差値は非常に低く、指標値も悪化傾向にある。	阪神水道企業団からの受水を増量したことにより経常費用が増加する。経費削減などの経営改善に取組み、効率的な事業経営に努める必要がある。	
3014	供給単価 (円/m <sup>3</sup> )		169.7	167.9	167.6	166.7	166.2		167.1	49.7							1							97.9				偏差値は平均を少し下回っており、指標値も悪化傾向にある。	平成25～27年度の財政計画期間中は現行料金を維持することとしている。	
3015	給水原価 (円/m <sup>3</sup> )		173.7	175.0	178.1	181.0	182.6		162.4	40.8							1							0.0				偏差値は低く、経常費用の増加及び有収水量の減少により、悪化傾向にある。	阪神水道企業団からの受水を増量したことにより、経常費用の増加が見込まれるため、経費削減などの経営改善に取組み、効率的な事業経営に努める必要がある。	
3016	1箇月当たり家庭用料金(10m <sup>3</sup> ) (円)		920	920	920	920	920		1,120.9	56.5							3											偏差値は高く、10m <sup>3</sup> 使用時の料金は低めの設定である。平成10年4月以降、料金改定を行っていない。		
3017	1箇月当たり家庭用料金(20m <sup>3</sup> ) (円)		2,350	2,350	2,350	2,350	2,350		2,483.0	52.8							3											偏差値は高めであり、20m <sup>3</sup> 使用時の料金は低めの設定である。平成10年4月以降、料金改定を行っていない。		
3018	有収率 (%)		93.5	93.2	93.1	93.5	93.4		91.1	55.6							3											偏差値は高く、H24は指標値は改善している。		
3019	施設利用率 (%)		60.8	60.1	76.9	75.4	75.1		75.5	49.9							2												H22以降は鯉池浄水場の廃止等により指標値が改善傾向にあるが、偏差値は平均を少し下回っている。	
3020	施設最大稼働率 (%)		70.0	66.6	86.0	82.7	81.4		85.0	49.5							2											H22以降は鯉池浄水場の廃止等により指標値が改善傾向にあるが、偏差値は平均を少し下回っている。		
3021	負荷率 (%)		86.8	90.1	89.5	91.2	92.3		88.8	63.3							3											偏差値は非常に高く、指標値も改善傾向にある。		
3022	流動比率 (%)		233.8	250.7	269.6	251.5	237.7		641.7	38.8							2											偏差値は非常に低い、指標値は200%を上回っており、ある程度の財務の安全性を確保している。また、指標値も改善傾向にある。		
3023	自己資本構成比率 (%)		66.5	68.3	67.7	67.9	67.0		67.1	49.9							1											偏差値は平均を少し下回っており、指標値は悪化傾向にある。		
3024	固定比率 (%)		139.4	135.3	135.9	136.2	138.9		142.0	50.8							2											偏差値は平均を少し上回っているが、指標値は悪化傾向にある。		
3025	企業債償還元金対減価償却費比率 (%)		66.8	62.5	59.4	64.9	59.1		72.5	53.4							3											指標値は改善傾向にあり、偏差値も高めである。		
3026	固定資産回転率 (回)		0.15	0.15	0.15	0.15	0.15		0.1	53.1							2											偏差値は高めているが、指標値は悪化傾向にある。		
3027	固定資産使用効率 (m <sup>3</sup> /10,000円)		9.7	9.6	9.6	9.4	9.2		8.6	51.9							2											偏差値は平均を少し上回っているが、指標値は悪化傾向にある。		

【基礎的な評価結果】

番号	業務指標	優位性 (指標の 望ましい 方向性)	業務指標値					比較対象(評価基準)						定量的評価						達成率	定性的評価  (経年比較・他事業体比較)	課題 (計画値との差)	
			H19 <基準>	H21	H22	H23	H24	経年 比較	他事業体(類似団体等)比較	NWR21 計画値	その他の 計画値	基礎的な評価 (偏差値・改善度)					ベンチマーク<参考>						
			全市	全市	全市	全市	全市					改善	平均値	偏差値	50 以上	H30	Aa	Ab	Ba				Bb
3101	職員資格取得度(件/人)		1.66	1.59	1.34	1.32	1.39		14	49.4							1					偏差値は平均を少し下回っており、指標値も悪化傾向にある。	
3102	民間資格取得度(件/人)		0.00	0.00	0.08	0.12	0.13		0.1	52.7							3					職員数の減少に伴い、指標値は改善傾向にある。偏差値は高めである。	
3103	外部研修時間(時間)		6.3	11.5	10.9	12.5	15.6		9.3	59.7							3					偏差値は高く、指標値も改善傾向にある。	
3104	内部研修時間(時間)		2.1	1.4	0.6	1.5	1.1		6.3	38.8							1					偏差値は非常に低く、指標値も悪化傾向にある。	
3105	技術職員率(%)		24.7	24.6	24.9	25.6	28.6		58.2	30.2							2					偏差値は非常に低いが、指標値は改善傾向にある。	
3106	水道業務経験年数度(年/人)		19.6	18.8	18.3	17.4	16.7		12.8	59.1							2					偏差値は高いが、指標値は悪化傾向にある。	
3107	技術開発職員率(%)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.0	50.0							2					指標値は0%で推移しているが、他事業体も同様の状況である。	
3108	技術開発費率(%)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.0	48.5							1					指標値は0%で推移しているが、他事業体も同様の状況である。	
3109	職員一人当たり配水量(m³/人)		261,455	272,324	276,394	279,763	287,628		386,489.0	43.3				302,683			2				95.0	偏差値は低い、職員数の削減に伴い、指標値は改善傾向にある。概ね目標値を達成できる状況である。	水需要が伸び悩む中、今後も安定給水に支障をきたさない範囲で人員削減に取り組み、引き続き生産性の高い効率的な経営に努める必要がある。
3110	職員一人当たりメータ数(個/人)		440	493	550	596	648		1,389.8	37.5							2					偏差値は非常に低いが、職員数の削減に伴い、指標値は改善傾向にある。集合住宅における参考メーターを算定基礎に含んでいないことも、指標値に影響していると考えられる。	
3111	公働率(%)		0.359	0.001	0.000	0.000	0.000		0.0	53.6							3					偏差値は高めであり、指標値も改善傾向にある。	
3112	直接飲用率(%)		88.4	86.2	93.9	91.6	93.4		62.2	62.6							3					偏差値は非常に高く、指標値も改善傾向にある。	
3201	水道事業に係る情報の提供度(部/件)		2.0	2.0	2.1	2.0	2.0		2.2	48.9							2					偏差値は平均を少し下回っているが、指標値は改善傾向にある。	
3202	モニタ割合(人/1,000人)		0.06	0.06	0.07	0.07	0.07		0.0	59.0							3					H22にモニター定数を30人 35人に増加したため、指標値は改善傾向にある。また、偏差値も高くなっている。	
3203	アンケート情報収集割合(人/1,000人)		0.37	0.14	1.03	0.49	0.63		1.9	43.6							2					偏差値は低くなっているが、指標値は改善傾向にある。アンケートを主に実施する水道バネル展の来場者数が指標値に大きく影響する。	
3204	水道施設見学者割合(人/1,000人)		4.0	4.9	3.6	2.5	2.2		7.2	43.1							1					H22以降に大規模浄水場を閉鎖したことに伴い、小学校の浄水場見学者数が減少している。偏差値は低く、指標値も悪化傾向にある。	
3205	水道サービスに対する苦情割合(件/1,000件)		1.35	0.84	0.70	0.78	0.62		1.0	51.8							3					偏差値は平均を少し上回っており、指標値も改善傾向にある。	
3206	水質に対する苦情割合(件/1,000件)		0.40	0.69	0.64	0.73	0.60		0.3	41.5							1					偏差値は低く、指標値も悪化傾向にある。	
3207	水道料金に対する苦情割合(件/1,000件)		0.336	0.105	0.023	0.005	0.004		0.2	52.7							3					偏差値は高めであり、指標値も改善傾向にある。	
3208	監査請求数(件)		0	0	0	0	0		0.2	51.7							3					監査請求はなされていない。他事業体も同様の状況である。	
3209	情報開示請求数(件)		8	11	7	19	9		26.2	53.4							2					偏差値は高めであるが、情報開示請求数は増加傾向にあり、指標値も悪化傾向となっている。	
3210	職員一人当たり受付件数(件/人)		328	334	343	353	375		455.2	46.6							2					偏差値は低めだが、職員数の削減に伴い、指標値は改善傾向にある。	
4001	配水量1m³当たり電力消費量(kWh/m³)		0.25	0.26	0.24	0.18	0.18		0.3	58.5		0.19					3				100.0	H23以降は鯉池浄水場が浄水処理を停止したことに伴い電力使用量が減少したため、指標値は減少し、偏差値は高くなっている。また、指標値は改善傾向にある。阪神水道企業団からの浄水受水が主な水源であることも大きく影響している。	送配水施設の再編成を進めることにより、さらなる省電力が図れる。
4002	配水量1m³当たり消費エネルギー(MJ/m³)		0.97	0.98	0.92	0.69	0.67		1.2	58.2		0.68					3				100.0	H23以降は鯉池浄水場が浄水処理を停止したことに伴い電力使用量が減少したため、指標値は減少し、偏差値は高くなっている。また、指標値は改善傾向にある。阪神水道企業団からの浄水受水が主な水源であることも大きく影響している。	送配水施設の再編成を進めることにより、さらなる省エネルギーが図れる。
4003	再生可能エネルギー利用率(%)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.7	46.3		1.72					1				0.0	再生可能エネルギーは利用していないが、太陽光発電の工事を予定している。	太陽光発電の導入により、環境負荷の低減に努める必要がある。
4004	浄水発生土の有効利用率(%)		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		56.6	37.7							1					浄水発生土の有効利用を実施していない。	
4005	建設副産物のリサイクル率(%)		97.1	75.3	99.9	99.3	96.2		69.9	59.8							3					リサイクル率は高い水準にあり、偏差値は高くなっている。また、指標値は改善傾向にある。	
4006	配水量1m³当たり二酸化炭素(CO₂)排出量(g-CO₂/m³)		89	95	74	59	82		168.1	55.7		67					3				33.2	偏差値は高くなっており、指標値も改善傾向にある。4001 配水量1m³ 当たり電力消費量、4002 配水量1m³ 当たり消費エネルギー に比例するが、電力供給元である電気事業者の排出係数の増減の影響も大きい。また、阪神水道企業団からの浄水受水が主な水源であることも大きく影響している。	今後、送配水施設の再編成を進め、省エネルギーを図ることにより、CO₂の排出量を削減することが必要である。
4101	地下水率(%)		12.1	14.0	11.1	6.2	5.2		19.2	44.9		11.3					1				100.0	H23以降は鯉池浄水場が浄水処理を停止したことに伴い、地下水揚水量が減少したため指標値は減少し、偏差値も低くなっている。また、指標値も悪化傾向にある。	危機管理の観点から、地下水を自己水源としてある程度確保していることが重要である。

【基礎的な評価結果】

番号	業務指標	優位性 (指標の 望ましい 方向性)	業務指標値					比較対象(評価基準)					定量的評価										達成率	定性的評価 (経年比較・他事業体比較)	課題 (計画値との差)	
			H19 <基準>	H21	H22	H23	H24	経年 比較	他事業体(類似団体等)比較	NWR21 計画値	その他の 計画値	基礎的な評価 (偏差値・改善度)					ベンチマーク<参考>									
			全市	全市	全市	全市	全市	改善	平均値	偏差値	50 以上	H30	Aa	Ab	Ba	Bb	D	点数	A (高評価)	B (普通)	C (低評価)					
5001	給水圧不適正率 (%)		-	-	-	-	-		0.7			0.00						0						-	常時、自動記録をとれる圧力測定計器は設置していない。また、給水圧の測定は漏水調査と併せて定期的の実施しているが、H17以降は実施していない。	
5002	配水池清掃実施率 (%)		113	81	84	99	142		224.0	46.7							2							偏差値は低めであるが、指標値は改善傾向にある。		
5003	年間ポンプ平均稼働率 (%)		データなし	データなし	データなし	データなし	データなし		26.4								0							整理されたポンプ運転時間のデータなし。		
5004	検針誤り割合 (件/1,000件)		0.07	0.05	0.04	0.02	0.02		0.0	54.8							3							偏差値は高めになっており、指標値も改善傾向にある。		
5005	料金請求誤り割合 (件/1,000件)		0.25	0.07	0.05	0.05	0.04		0.1	52.7							3							偏差値は高めであり、指標値も改善傾向にある。		
5006	料金未納率 (%)		8.9	8.9	8.9	9.0	8.7		7.4	46.5							2							3月分の調定額が全額未納で算出されるため、偏差値は低めとなっている。指標値は改善傾向にある。		
5007	給水停止割合 (件/1,000件)		16.8	16.5	17.5	16.5	16.8		12.7	44.3							1							偏差値は低く、指標値も悪化傾向にある。		
5008	検針委託率 (%)		100.0	100.0	24.8	27.7	27.5		98.8	(14.6)							1							H22の財団法人西宮市水道サービス協会の廃止に伴い、南部は一部を除き水道局での検針となったため、指標値は悪化している。このため、偏差値も非常に低くなっている。		
5009	浄水場第三者委託率 (%)	対象外	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		1.5															浄水場の第三者委託は実施していない。他事業体も同様の状況である。		
5101	浄水場事故割合 (10年間の件数/箇所)		データなし	0.750	0.5	0.5	0.0		0.1	53.5							3							H20までは浄水場停止事故に関する記録が10年間分蓄積されていなかったが、H21より算出可能となった。H24は指標値は0件である。		
5102	ダクタイル鑄鉄管・銅管率 (%)		59.7	60.8	61.9	62.6	63.9		69.3	46.8		68.8					2						92.8	偏差値は低めだが、指標値は改善傾向にある。	管路の老朽度や耐震性、重要度を考慮して、優先度の高い管路から計画的に更新していく必要がある。	
5103	管路の事故割合 (件/100km)		5.9	6.5	11.2	8.5	7.7		5.3	42.6							1							偏差値は低く、指標値も悪化傾向にある。		
5104	鉄製管路の事故割合 (件/100km)		1.9	2.5	4.5	2.9	2.0		2.2	51.0							3							偏差値は平均を少し上回っており、指標値も改善傾向にある。		
5105	非鉄製管路の事故割合 (件/100km)		27.9	28.3	48.7	40.2	41.0		14.2	27.9							1							偏差値は非常に低く、指標値も悪化傾向にある。		
5106	給水管の事故割合 (件/1,000件)		6.8	5.9	6.5	5.3	5.0		6.0	52.2							3							偏差値は高めであり、指標値も改善傾向にある。		
5107	漏水率 (%)		1.8	2.0	1.7	2.2	1.5		5.3	58.9		1.9					3						100.0	漏水量の減により、偏差値は高く、指標値も改善傾向にある。	今後も計画的な漏水調査・修繕や老朽管の更新を行う必要がある。	
5108	給水件数当たり漏水量 (m <sup>3</sup> /年/件)		5.0	5.2	4.4	5.7	3.9		15.4	57.8		4.8					3							100.0	漏水量の減により、偏差値は高く、指標値も改善傾向にある。	今後も計画的な漏水調査・修繕や老朽管の更新を行う必要がある。
5109	断水・濁水時間 (時間)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.7	52.7		0.00					3						-	偏差値は高めであり、指標値は改善傾向にある。	他の工事による断水・濁水も含むため、不可抗力な面もあるが、今後も計画的な老朽管の更新及び管路の維持管理を十分に行っていくことにより、管路事故を減らす取組みが必要である。	
5110	設備点検実施率 (%)		191	210	239	212	247		777.3	44.9							2							偏差値は低いが、指標値は100%を上回っており、法定の点検回数は実施している。また、指標値も改善傾向にある。		
5111	管路点検率 (%)		28	27	30	25	27		33.2	47.6							1							偏差値は低めであり、指標値も悪化傾向にある。		
5112	バルブ設置密度 (基/km)		24.3	24.7	25.0	25.2	25.4		14.9	68.0							3							偏差値は非常に高く、指標値も改善傾向にある。		
5113	消火栓点検率 (%)		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		74.0	56.0							3							指標値は100%で推移している。		
5114	消火栓設置密度 (基/km)		3.3	3.3	3.3	3.2	3.2		3.5	48.6							1							偏差値は平均を少し下回っており、指標値は悪化傾向にある。		
5115	貯水槽水道指導率 (%)		0.2	26.3	55.2	12.9	16.0		18.3	49.2							2							偏差値は平均を少し下回っているが、指標値は改善傾向にある。		
6001	国際技術等協力度 (人・週)		0	0	0	0	0		0.1	48.5							1							職員は海外派遣はなく、指標値は0%で推移しているが、他事業体も同様の状況である。		
6101	国際交流数 (件)		0	0	0	0	0		0.2	46.1							1							国際交流はなく、指標値は0%で推移しているが、他事業体も同様の状況である。		
									77																	